

はじめに

山と川と台地の広がり恵まれたあきる野市に住んで、自然の息吹を身近に感じることが多い。あきる野市の自然の現状を把握する調査を3年間実施し、昨年、あきる野市の自然の概要を紹介したリーフレット「知って守ろうあきる野の自然」を発行したところであるが、今回、ここに調査結果のまとめを報告できることになった。紙面の都合上、詳細な調査結果の記録をすべて掲載できないことは惜しまれるが、別途、貴重な資料として市に保存・管理され、今後の自然環境の保全に取り組む資料として寄与できるものと思われる。あきる野市の自然環境調査が、多くの市民の協力を得て、市民自身の手によって実施された経緯をここに記録として残すことにした。

平成16年4月に「あきる野市環境基本条例」が施行され、その規定により2年後に「あきる野市環境基本計画」が策定された。この基本計画に基づき、翌年、基本計画に掲げられた施策の推進及び進捗状況の点検評価を行うために、市民参加の環境委員会が組織された。さらに、「あきる野市の自然を知り、あきる野市の自然を守る」という基本計画の重点施策の一つを実行に移すために、環境委員会の下部組織として具体的な取組を担うボランティアの実行部門「あきる野市自然環境調査部会」が組織された。

あきる野市自然環境調査部会は、市内の地質や生物などの自然環境にかかわる調査研究に様々な場で携わってきた経験を持つ市民15人の調査員で構成され、8か月の準備期間を経て、平成21年4月に発足した。地質班、植物班、動物班に分かれ、それぞれの領域を担当して調査を開始した。その後、公募により15人の市民調査員が加わり、市内の自然を市民が協同で調査する活動となった。また、地質・化石観察、植物観察、河川生物調査などを行事化し、市民が直接自然に触れる機会を設けたり、野生生物の生息調査では、市民に野生生物の目撃情報を募り1,300人余の市民から情報提供の協力を得た。このような様々な活動を通して、市民が自然に目を向ける雰囲気を生み出しながら、市内の自然環境の実態を徐々に浮き彫りにしてきた。

この間、今回の調査で実証を目指して地質調査を行っていた五日市湖の存在が、映画「五日市物語」に登場し、多くの市民の知るところとなった。また、この調査の中で特定外来生物であるクリハラリス（タイワンリス）の生息が確認され、独立行政法人森林総合研究所により捕獲調査が開始された。また、同じく特定外来生物であるアライグマについても市内に広く生息が確認され、対策が本格的に行われる運びとなった。これらの特定外来生物は、生息域を拡大させる傾向があり、その結果、家屋の破損や汚損の被害を急増させ、他の生物との競合や捕食によって市内の自然の構成に変化を引き起こす原因になっている。今回の調査結果に対応した市の取組が、被害を回避する成果に結びつくことを期待している。

ここに報告する調査結果は、多様で奥の深いあきる野市の自然の実態について、まだ表面の部分把握した程度であり、今後も調査を継続するが、当初に予定された3年間の調査を一応の区切りとして、その結果を報告する。

平成25年3月

あきる野市環境委員会自然環境調査部会会長 森 弘 安